

優秀賞

あたたかいつてゆたかだね

荒川区立花の木幼稚園年長

柳澤 芽奈

ポケットのないカンガルーが人からポケットをもらって、じぶんのこどもやもりのどうぶつたちをじぶんのポケットにいれてあげたしゅんかんがたのしくってこの本にしました。

ケイティーというなまえのおかあさんカンガルーにはポケットがありませんでした。ぼうやをどこにも、つれていけませんでした。いろんなどうぶつたちにどうやってこどもをはこぶかききました。そしたら町にポケットがあると、ききました。町にいつてみたら、かなづちやの男の人がケイティーに、エプロンをくれました。ケイティー

はうれしいきもちになってじぶんのぼうやを一ばんさいしょにポケットにいれました。エプロンにはたくさんのポケットがあつたので森のどうぶつたちをいれてあげました。森のどうぶつたちは、ケイティーのポケットがだいすきです。ケイティーはせかいいちポケットのあるカンガルーのおかあさんになったのでしあわせになりました。

ケイティーが、かなづちやの男の人にエプロンをもらってやさしくしてもらったことがこころにのこりました。

わたしもおねえちゃんがぐあいのわるときにおきがえをてつだってあげたことをおもいだしました。

あたたかくてしあわせなきもちになりました。みんながもっているものがないのはかなしいき

もちになることがわかりました。わたしもおも
だちがおかしをもっているのにじんだけもってい
ないのは、かなしくなります。そんなときおねえ
ちゃんが、「だいじょうぶだよ。」といっけて
おかしをくれました。そのときうれしいきもちに
なりました。わたしも、こまっているひとやかな
しいきもちのひとをみかけたら、やさしくしてあ
げたいとおもいました。あたたかいきもちは、心
がゆたかなきもちになるとおもったからです。